



地域のお悩み

×

ICTソリューションマッチング会2021
～地方公共団体の地域課題～

2021.12.2

橿原市 デジタル戦略課
デジタルコーディネーター 大賀暁



橿原市

～過去・現在・未来～

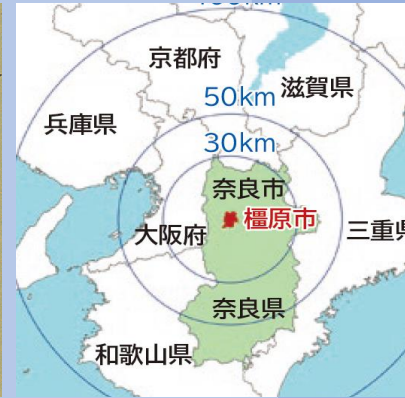
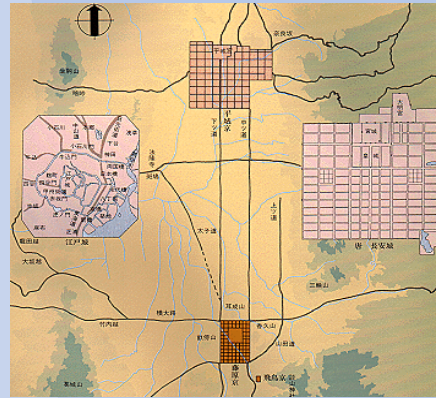
誇れる歴史

藤原京（7世紀末）
人口 3万人

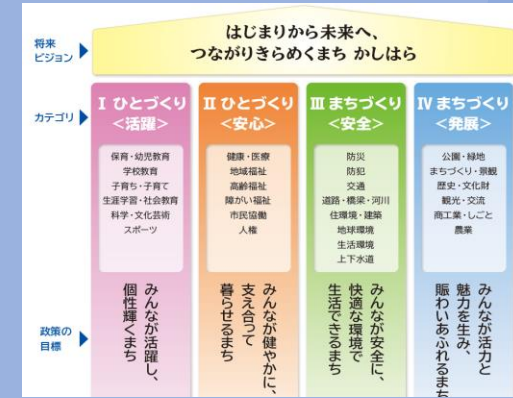


現状

2021年現在
人口 12万人



2040年
人口 10万人



創り上げるべき未来

日本の中心
最先端都市
横大路、下ツ道、中ツ道

奈良県立医大
奈良芸術短期大学
県外就業率日本一、
昼間/夜間人口ギャップ

未来の産業づくり、生活基盤
エンタティメント・観光
医療・健康、スポーツ、
子育て、人財育成
デジタル利活用、防災

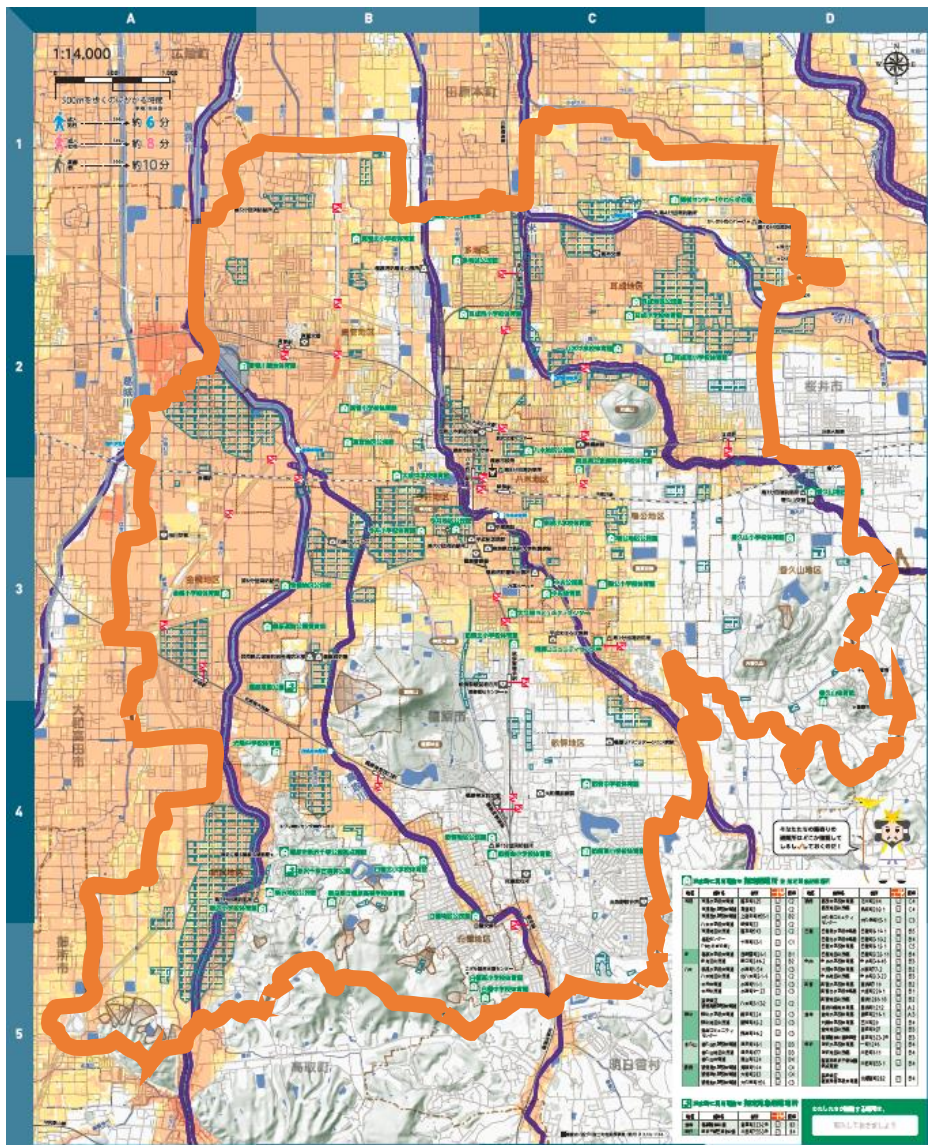
データ

面積：39.56km²、人口：120,752人、人口密度：3,137人

市制発足：昭和31年2月

市長：亀田 忠彦（かめだ ただひこ） 2019年11月就任

地域課題



檜原市ハザードマップより

檜原市には河川や用水路に井堰が約80か所設置されている。通常は灌漑目的で田畑に水を引き込むため井堰を閉じるが、豪雨で河川氾濫の危険があると県が判断すると事前に開放を行わなければならない。

ところが井堰は市の所有物ではなく、地元の水利組合等（以下「水利組合等」とする）であるため、市が勝手に操作することはできず、現状では市の担当者が現地をすべて目視で確認の上、水利組合等に電話で開放の依頼をしている。

水利組合も専従者がいるわけではないため電話依頼から解放作業開始までに時間がかかることが多く、市の担当者による現地巡回によるすべての井堰の開放を確認するまでに、非常に長い時間を要する問題と現地を車で巡る危険が発生している。さらに担当者が巡回に時間を取られるため災害対策本部での他の対策業務に入ることができず、人員不足の問題も抱えている。

自助 + 公助 + 共助

人口↓ レジリエントな社会 県外就労
職員数↓ 離れた家族 3



期待する解決策

<p>期待する解決策</p>	<p>インターネット経由でカメラによる監視網</p> <ul style="list-style-type: none"> 井堰と周辺の水面を確認できる監視用のカメラを設置（数台による実験運用から） カメラ映像（数十秒に1枚といった静止画）を地域BWAを活用したインターネット経由でサーバに蓄積 最新映像と井堰の位置情報等を市の運用するサイトとして公開（市の職員、井堰に関わる市民らがモニターを確認するだけで豪雨の中現地に行かずとも開閉状況を確認・共有できるようにする） <p>市の職員がサイトから確認の上、逐次連絡を行うことで、雨量や水位に見合った危機対策としての指示・依頼を水利組合に行えるようにする</p>
<p>備考</p>	<p>カメラ映像は蓄積し、必要に応じて平時との比較ができるようにしたい。将来的には、映像学習から氾濫危険度や井堰の劣化状況を推定するといったAI化を進め、Society5.0社会に適した環境の構築に進めたい。</p>

例えば
 ・遠方在住の家族が見て連絡
 ・昼間は大阪・京都勤務の方が遠方から代理作業依頼

